

ニアックニュースレター

NIAC

News Letter

2012
NO. 114

巻頭言

一般財団法人 南西地域産業活性化センター
専務理事

根路銘 安隆

クローズアップ

‘うちなゝ噺家’

藤木 勇人

NINOC

CONTENTS

巻頭言 ▶

- *一般財団法人 南西地域産業活性化センター 専務理事 根路銘安隆 …… 1

事業紹介 ▶

- *平成 24 年度 自主研究事業
「復帰後の沖縄県および県内市町村の人口動態・
世帯構造等の変化に関する調査研究」…………… 2
- *平成 24 年度 自主研究事業
「欧米観光客に対するアンケート調査及び現地ヒア」…………… 2
- *平成 24 年度 自主研究事業
「沖縄とアジアの旅客・物流航路に関する現状調査」
～台湾・沖縄間の人と物流促進による経済産業振興を目指して～ …… 3
- *「スマートエネルギーアイランド基盤構築事業」
～「環境共生フロンティア沖縄」及び「沖縄県のエネルギービジョン」の
具現化に向けて～ …… 4

クローズアップ ▶

- *‘うちなあゝ家’ 藤木勇人 …… 6

コラム ▶

- *ぴとるびき むーるびき…………… 9

事業報告 ▶

- *「島しょ型ゼロエミッションエネルギーシステム構築事業」
～ バイオマスエネルギーの実用化、総合利用に向けた調査研究 ～ …… 10

開催報告 ▶

- *平成 24 年度第 1 回理事会・評議員会 …… 11

事務局ダイアリー ▶

- *産学官交流サロン(平成 24 年 3 月、4 月、6 月) …… 12
- *活動状況(平成 24 年 3 月～6 月) / 賛助会員募集の案内 …… 13

No.114

2012



【表紙写真】

【パイナガマビーチ】 宮古島市

港のすぐ近くにあり、地元にも観光客にも大人気のビーチです。

市街地にある気軽に楽しめるビーチです。透明度を誇る宮古島の海、港の近くとは思えぬほどキレイです。マリッジを楽しまれるのはもちろん、親子で海水浴やバーベキューも楽しめます。みんなに愛されている憩いの場所です。防風林があるから木陰で一休みもできます。

卷頭言

復帰 40 周年



一般財団法人 南西地域産業活性化センター
専務理事 **根路 銘 安隆**

今

年は沖縄の祖国復帰から 40 年の節目の年に当たる。

ものごとは 10 年、20 年という単位に従って動いているわけではなく日頃の小事、大事の重なりとともに変遷しているのであるが、それでも周年というものは意識せられてくるもの

である。

1972 年 5 月 15 日は米国の支配から離れて日本国の憲法と諸法令が適用された日であり、琉球政府が沖縄県庁となり、諸法令が変わり、買い物で支払うお金がドルから円になり、その他諸々の変動は沖縄に生きていた者にとってまさに現実であったが、2012 年の今日から見ればそれはもう既に歴史である。

40 年の長さは、人が成人して就職し、定年を迎えるという期間に似ている。この間に人は学んで自立を図り、盛んになり、生活を築き、後継を育て、そして老いるのであるが、復帰の頃に沖縄の振興に携わり担ってきたプレーヤーたちも活動期間を過ぎて入れ替わりつつあるということでもある。

しかし、沖縄の社会は老いるのではなくこれから盛んになろうとしている。復帰時に目指した工業化による産業振興とは違った形ではあるが、観光産業や IT 産業が牽引して成長し、復帰時の 1.5 倍という他の地域にないような人口増加もそれを示している。

今年には改正沖縄振興特別措置法が制定され、沖縄県自らの手による沖縄振興計画が策定された。その実行を推進するために、我が国において前例のない特別交付金制度もスタートした。産業振興政策の点からは復帰に次ぐ大きな節目の年と言える。次の 10 年後、さらには 40 年後に歴史としてみると、素晴らしいスタートが切られたと評価される時代でありたいものである。未来につながる若々しい元気な沖縄を築いて行くためにも、当センターは地域に根ざしたシンクタンクとして、県庁や自治体、産業界を全力でサポートしていきたいと思う。

平成24年度 自主研究事業

「復帰後の沖縄県および県内市町村の人口動態・世帯構造等の変化に関する調査研究」

本研究事業では、社会経済分野の基本的要素である人口動態や世帯構造の変化、労働状態や人口の社会移動などの分析を行い、地域社会や地域経済への影響を考察する際の基礎資料とします。

2010年の国勢調査によると、我が国の総人口は1億2,800万人と05年調査比でほぼ横ばいとなりました。地域別で見ると首都圏などへの集中が加速し、地域間格差が拡大しており、また、世帯構造では単身者や高齢者だけの小規模世帯が増えていることが浮き彫りになりました。

沖縄県は、増加した7都県の中で0.59%増と最も高い伸び率となり、65歳以上の割合は17.3%と、全都道府県の中で唯一20%を下回っております。しかし、本県でも全国に遅れて少子高齢化の傾向が続いており、総人口も国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、2020年代半ばにピークを迎えた後、減少に転じる予測になっています。

人口は、社会経済分野の最も基本的な要素であり、国や地域の消費動向や成長率、また労働市場や社会保障制度など、あらゆる分野に影響を及ぼします。また、少子高齢化や人口の減少は、世帯構造にも変化をもたらし、この世帯構造の変化も地域社会や地域経済に大きな影響を及ぼします。

本調査研究では、国勢調査や人口動態統計など各種統計指標に基づき、復帰後の本県および県内各市町村の人口動態や世帯構造の変化、および労働状態や人口の社会移動等を分析し、地域社会や地域経済への影響を考察する際の基礎資料を提供することにします。

(上席研究員 金城 毅)

平成24年度 自主研究事業

「欧米観光客に対するアンケート調査及び現地ヒア」

来沖観光客数が少ない欧米諸国の人々の旅行に関する嗜好等について明らかにし、今後の沖縄の観光業におけるマーケティングの施策の基礎情報とすることを目的として、欧米人に対するアンケート調査及びヒアリング調査を行うことを決定した。

【調査の背景と目的】

沖縄県は入域観光客数の拡大を目指し、国内のみならず海外からの誘客にも努めているところである。地理的に近い中国からの誘客策が功を奏している一方で、欧米からの誘客については、沖縄の知名度やイメージ、来沖の目的といったマーケティング策立案のための基礎情報も十分ではない。同一地域からの誘客への依存は、リスク管理の観点から好ましくないことから、中長期的な観光戦略として、欧米を含む他地域からの誘客についても、積極的な取り組みが必要である。

本調査においては、欧米、特に、社会経済的な近接性を持たず、沖縄についての情報が比較的少ないと思われる欧州の人々のうち、実際に沖縄を訪問したことがある人々を対象に、来沖の目的、感想等について調査を行う。さらに、日本政府観光局の欧州事務所や現地旅行代理店、その他観光関連組織等を訪問し、旅行者の嗜好や沖縄観光のイメージ等についての調査を行うことを予定している。

【調査期間】

平成24年6月～平成24年12月

【調査内容】

- 1) アンケート調査（沖縄観光の満足度調査）
- 2) ヒアリング調査 …… 現地観光関連組織等へのヒアリング

(調査第二部 阿佐慶 茂史)

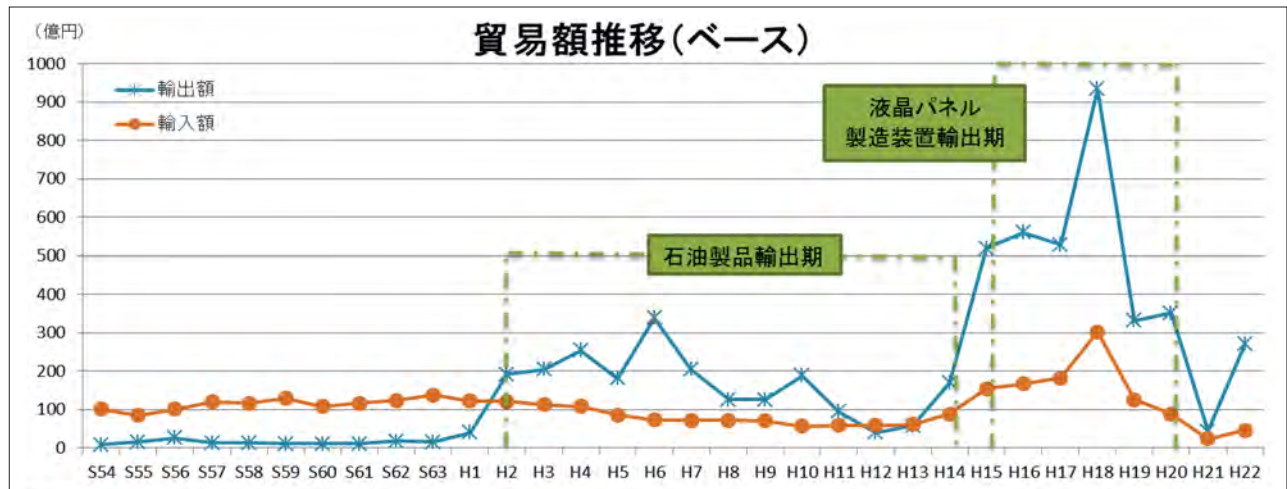
平成24年度 自主研究事業 「沖縄とアジアの旅客・物流航路に関する現状調査」 ～台湾・沖縄間の人と物流促進による経済産業振興を目指して～

アジア市場経済の現状・動向と展望の背景について、沖縄本島と宮古・八重山及び台湾の旅客・物流航路の現状は、2008年7月に有村産業(株)の廃業依頼、ほとんど途絶えている状況にある。これにより、沖縄に就航する貨物船は減少傾向にあり、生鮮食品の輸出が難しいなど、県内物流に影響を及ぼしている。

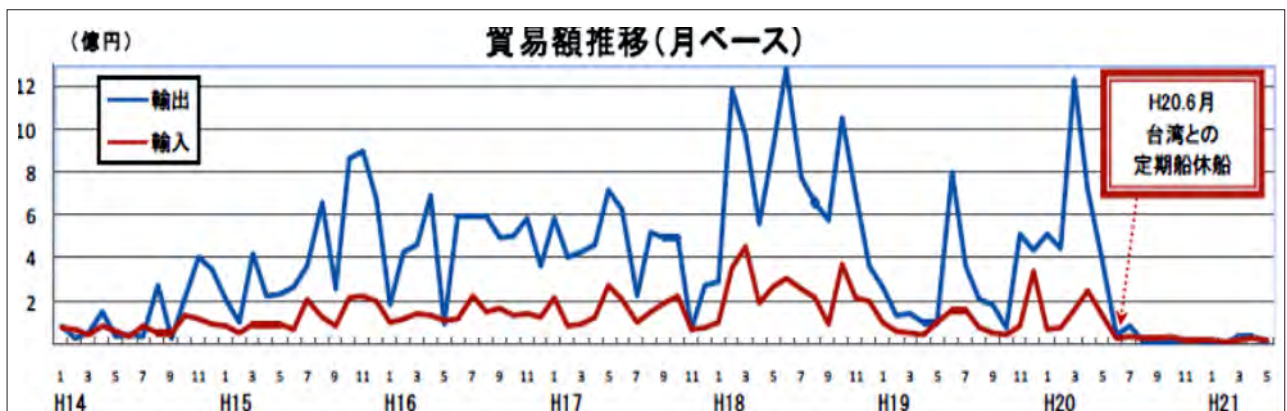
沖縄県の対台湾貿易の資料から、貿易額の推移の輸出額は平成2年を境に、石油製品の輸出が増加している。その後、平成14年から「液晶パネル製造装置」の輸出が始まった影響で倍増し、平成18年には過去最高の934億円を記録している。しかし、平成19年には、「液晶パネル製造装置」の需要の落ち込みと輸出額も減少し始め、台湾との定期船(有村産業)が休船したことも影響し、平成20(2008)年6月以降、激減の一途をたどっている。輸入額は、平成15年から再輸入品の増加を受けて増加傾向で推移し、平成18年には過去最高の302億円を記録した。しかし、輸出と同様に液晶パネル製造装置の需要の落ち込み及び台湾との定期船の休船が影響し、平成19年以降、減少傾向で推移している。

本調査では、まずは沖縄とアジア特に台湾との旅客・物流航路の現状把握や課題抽出に焦点をあて、今後の県の具体的な施策支援への提案や沖縄経済振興に関わる検討・参考資料の一助に資することを目的に実施する。

(企画研究部 劉 碩)



*データは沖縄統計年鑑より、(一財) NIAC 作成



*資料は沖縄地区税関のホームページより

「スマートエネルギーアイランド基盤構築事業」 ～「環境共生フロンティア沖縄」及び「沖縄県のエネルギービジョン」の具現化に向けて～

島嶼地域に適した再生可能エネルギーの利用促進を図るため、再生可能エネルギー導入量及び普及の拡大を促進し、これらの技術・ノウハウを活かした産業を島嶼型エネルギーシステムとして東南アジアや太平洋島嶼国への技術輸出を展開することを目指し実施している。

本事業は沖縄21世紀ビジョンで示された「環境共生フロンティア沖縄」及び「沖縄県エネルギービジョン」の具現化、すなわち沖縄県の低炭素社会の構築と県内環境産業の創出・育成に向けた「スマートエネルギーアイランド基盤構築」を目的に再生可能エネルギー導入及び普及拡大を行いつつ、これらの技術・ノウハウを活かした県内産業が島嶼型エネルギーシステムとして東南アジアや太平洋諸国への技術輸出を図ることを目的に沖縄県から委託を受け実施している。

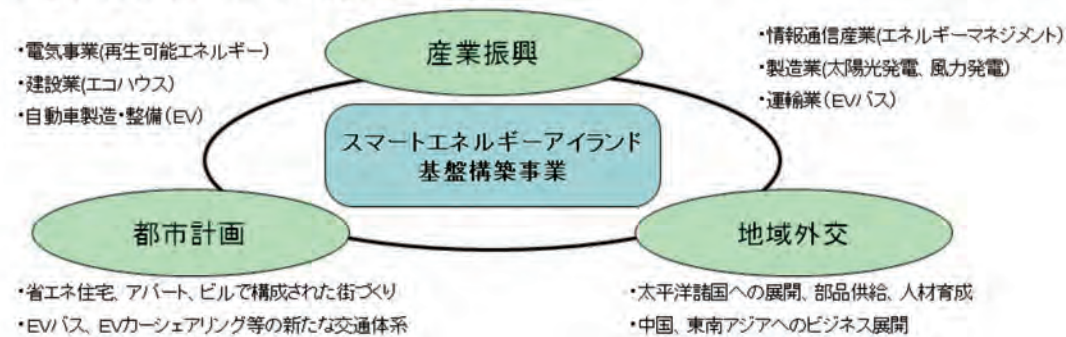
沖縄スマートエネルギーアイランド基盤構築事業

1. 事業の位置づけ

○ 沖縄21世紀ビジョンで示された「環境共生フロンティア沖縄」及び「沖縄県のエネルギービジョン」の具現化と環境産業の創出を図る事業である。

2. 事業の目的

○ 電力供給者と需用者が連携した亜熱帯島嶼型スマートグリッドの実証を契機に、本県のエネルギー関連産業を振興する基盤を構築するとともに、その成果を本県の都市計画や地域外交に繋げていくことを目的とする。



また、本事業は以下の6つの実証テーマを設けて実施しており、当財団ではそのうち①～③の3つの実証テーマを実施している。

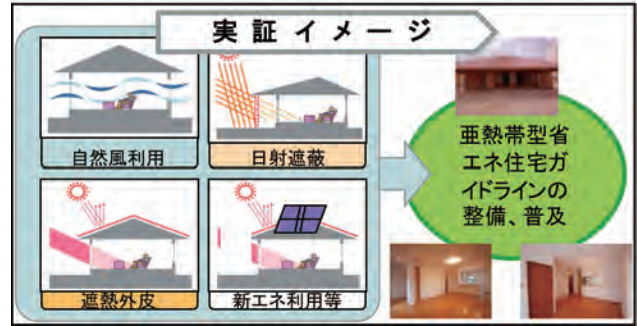
【スマートエネルギーアイランド基盤構築事業における実証テーマ】

- ① 亜熱帯型省エネ住宅の実証
- ② 分散型店舗の消費電力マネジメントシステムの実証
- ③ 再生可能エネルギーの出力変動抑制システムの実証
- ④ 宮古島市島嶼型スマートコミュニティ実証（実施機関：宮古島市）
- ⑤ EVバス開発・実証運用（実施機関：財団法人沖縄県産業振興公社）
- ⑥ 太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの導入（実施機関：沖縄電力株式会社）

なお、当財団が実施する実証テーマの概要については以下の通りである。

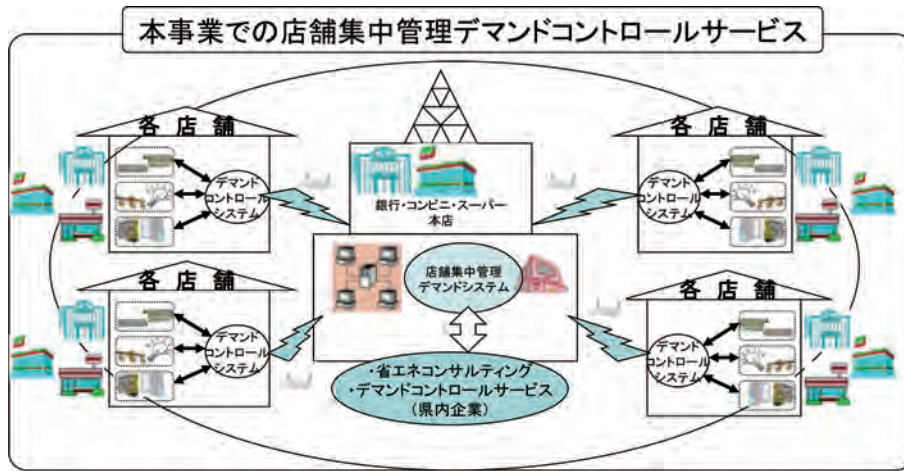
①亜熱帯型省エネ住宅の実証

蒸暑地域ガイドラインを基に「亜熱帯型省エネ住宅ガイドライン案」を作成し、評価基準を設け、その基準に基づいた亜熱帯型省エネ住宅（3パターン）について設計、建設を行い、実証を通じたデータを蓄積しつつ亜熱帯型省エネ住宅の普及促進を図る。また、亜熱帯型省エネ住宅に関する人材育成や海外展開等についても検討を行う。



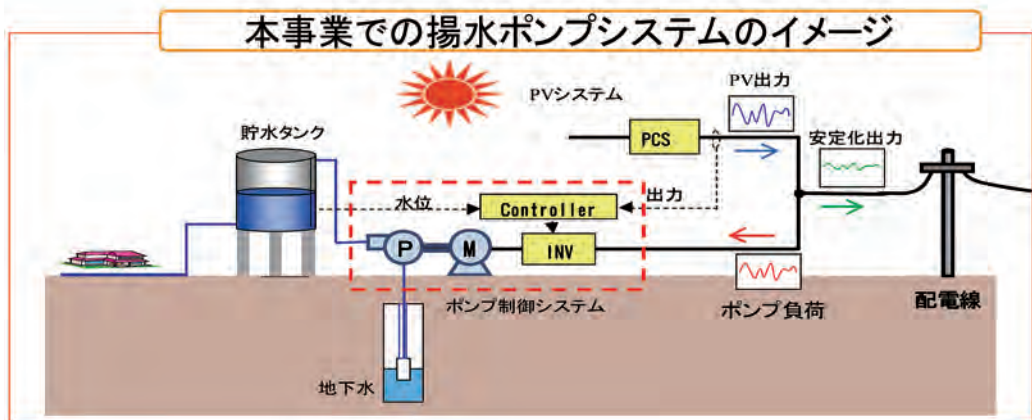
②分散型店舗の消費電力マネジメントシステムの実証

既存設備を変更することなくデマンド制御システムの付加により屋内環境の快適性を保つための実証を行う。また、ユーザーへのコンサルティングを組み合わせることで消費電力量を抑えるとともに、中央（本店等）で各店舗における電力のトータルマネジメント・集中制御を図るシステムの構築を行う。



③再生可能エネルギーの出力変動抑制システムの実証

太陽光発電（PV）等の変動電源を抑制することを目的にPVと揚水ポンプを組み合わせ、従来から行われている蓄電池等の二次電池を用いた出力変動抑制システムの代替として、揚水ポンプの可変速運転にて変動電源を抑制する技術の開発を行う。



本事業については、平成23～26年度までの4年間の実施を予定しており、事業における成果と構築した基盤を活用し、環境共生型街づくりと地域外交・国外へのビジネス展開を促進していく予定である。

(調査第一部 西野 通憲)

シリーズ

クロズアップ



藤木
Hayato
Fujiki
勇人

うちなあ噺家

3匹目のドジョウを羽交い締め

藤木勇人（ふじき はやと）氏

1961年1月9日生。出身は沖縄県コザ。20代の頃、「笑楽過激団」メンバーとして活躍する一方、照屋林賢氏の「りんけんバンド」メンバーでもあった。これまで、「バイナップルツアーズ(1992年)」や「ニライの丘沖縄国際映画祭出品作品(2010年)」などの映画やNHK連続テレビ小説の「ちゅらさん」、「テンベスト(2011年7月)」、「坂の上の雲(2011年)」などに出演。現在は、東京に事務所を置き、全国で活躍するマルチタレント 自称「うちなあ噺家」として、また、役者、コメディアン、随筆家、沖縄方言指導者、琉球文化研究者として、多岐に亘る分野で活躍中である。

自 称「うちなあ噺家」として活躍する藤木さんとの雑談。東京を拠点に、3匹目のドジョウを羽交い締めするまで頑張ってください。

— 本日は、インタビューへの対応どうもありがとうございます。(インタビュー会場は東京渋谷のとあるおしゃれな飲食店) お昼の食事も美味しいし、良いお店も紹介してもらいました。藤木さんは、今、東京で活動中ですが、沖縄と東京はどれくらいの頻度で行ったり来たりですか。

事務所を東京の成増において、沖縄には月2回ぐらいの頻度でもどります。

— 出身は沖縄市ということで、家はどちらですか。

胡屋です。諸見小学校の近く。ミュージックタウンのど真ん中で生まれ育ちましたから。今はもうなくなりましたけどね。

— 本土の落語を沖縄風にアレンジしたひとり芝居はとてもおもしろいですね。沖縄の出来事や物語を黙認耕作地」とか、「闘牛祝辞」とか、「沖縄病」とか沖縄方言まじりのおしゃべりで、とても楽しい。ああいふ話題のネタというのは、どのようにしてつくるのでしょうか。

フィールドワークと本です。後は勝手な想像ですよ。人は、毎日の生活が日常すぎて、自分たちの面白さに気付いていなかったりするからね。例えば、テレビ局が面白がって、コザの民謡酒場とかの、どこのライブが一番面白いのかと、民謡酒場大会をしたわけ。「姫」とか「なんた浜」とか「花ぬ島」とかね。そうしたら、4つの民謡クラブが競ったわけですよ。そうしたら、「あしびなー」(コザの市

民小劇場・コリンザ内)は、来店者で満杯さ〜。集まったお客は、店のファンたちで、やっぱり俺の行きつけの店が最高だ〜と、みんな聞いていたのに、最後は丸く収まるんだよ。最後に、民謡の賞をあげましようと言ったら、優勝、グランプリ賞、最優秀賞、チャンピオン賞と、全部に賞があって、みんな、もらえるわけね。恐らく、そうじゃないと収まらないんだろうけど、それを収めるすごさ。本土ではあり得ないじゃん。お客は、みんな満足して帰って行ったよ。また、それが新聞にも載るんだよ。何かもう沖縄とか、コザとかを象徴するような話でさ。

—コザの街は落ち込んでいるという話を良く聞きますが、人口は増えているそうですね。

人口は増えている、沖縄市はね。コザと言ったら、ちょっと違うかもしれない。しかし、沖縄って、ほんとに面白いねと思うよ。下地幹郎氏が比嘉さんを応援して、比嘉さんが市長になった時、自民党がワジワジして下地氏を自民党から追い出した。あのときも笑ったけど、どうのこうのと言いながら、沖縄は元気じゃないですか。観光も伸びているでしょう。また若干の土地バブルもあるでしょう。結局、全部震災と原発の影響を受けていると思うけど、それは口を大にしては言えないじゃないですか。

—東京はどうなんですか、福島原発の影響はあるんですか。

ありますよ、全然元気がない。元気って面白いよ。本土では、お金がないだけで元気がなくなるし、電気が暗いだけでも元気がなくなる。一方の沖縄は暗かったら、暗かったで、もう何か悪いことがで

きそうだし、お金がなくてもいつでも歌ったり踊ったりするからね。

—藤木さんは「坂の上の雲」にも出演されていましたが、これからの活動はどのような感じでしょうか。東京で活動を始めてもう何年ですか。お子さんと奥さんは沖縄にいるわけですね。

そう、そう。事務所開いて、もう5年目に入りました。沖縄の話芸を作ろうということです。昨日も高円寺でやりましたが、お客さんは沖縄のおじいや、おばあ。ヤマトにいる沖縄出身、沖縄に関心のある人だね。沖縄は、今年復帰40周年ですよ。沖縄が日本になって40周年、沖縄はそういうところなんだよって話をするし、ヤマトんちゆの多い前では不発弾の話してみたり。それはニュースであれだけ報道しているようにワーワーってやっけていても、あれはもうメディアがつくったということであって、実際には基地とどこまで皆さんと張り合っているかということ、張り合うよりも結構うまくやっているんだよ、沖縄の人たちってという話になる。米軍人がパラシュート降下訓練の時、沖縄の変なところに落ちてしまい、ウチナンチュの人達が囲んで、この米兵のパラシュートつかまえて「ヤナヒャーヤ、エー、ヤーン、ネーム(名前)、ネーム」と言ってさ、全然意味も通じないのに、これで米兵を脅かしたら、翌日は基地から「お願いだからパラシュート降下圏内で降りてきた米兵を脅さないでください」という話があって、みんなでゲラゲラ笑うんだよ。

—見方によっては、とても笑えますよね。

そう。緊張感はあるんだけど、

でもあまりにも近くに接しているから、そんな緊張感ばかりでは生きていけないよね。そこにはそういうコミュニケーションもあるんだっていう地元ならではの話がある。嘉手納基地包囲網だって、みんな包囲したら嘉手納基地はなくなると思って包囲するよね。沖縄の人は、包囲したいと思うより、イベントだからみんな集まって楽しんでニコニコ合っているのに、ヤマトの政治団体は「早く手をつないでください!」と大声をだす。みんな心の中では、何か軍隊みたいだなあ、どこか切れているけどなあって思いながらみんなやっているわけよ。(笑)

—ところで、藤木さんは沖縄のメディアからも情報発信をしていますよね。

ラジオは2つ持っている。月1回のNHK沖縄放送局(ラジオ第1 毎月最終土曜日 午後7:20~7:55)で、全国向けでやっていますよ。また、ラジオ沖縄の「熱中倶楽部」(月曜日の夜8時)が月に1回ある。こっちは人は大喜びで結構聞いてくれているよ。沖縄で放送されると、必ず沖縄からやってきてから、「ヤーヤ、チバトーンヤー」とか来るらしいんだよ。もうそれがとってもうれしいと、みんなが言いますね。みんな、自分の頑張りというのを伝えたいわけさ。でも、こっちは一生懸命働いていて、その手段もなければ、方法も自分でどうしていいのかも分からないわけさあね。それを、たまたま俺がラジオでこんなして頑張っている、「アイ、ヤーヤ、チバトーンヤー」とかね、こんなことして頑張っているねと伝えるだけで大喜び。ここ本土には、沖縄のことを思っている人たちが、たくさんいる。例えば、千葉県で

活躍する今帰仁村出身の社長は、裸一貫で出てきて重機屋を開き、大きな会社に育て上げている。阪神大震災があった頃から地盤改良のことを一生懸命やっていて、その特許も取っていた。そうした時、今回の東北の大震災が起り、千葉県の一部地域では大変な液状化となり、社長自らが現場に出て頑張っている。その会社には、沖縄の建設業関係者が視察に来たこともあるって聞いていて、「ここまでやるんですか」って言われたというから、「いや、ここまでやって、仕事だ」と答えたそうだよ。とにかく、パワーがものすごい。ここには、そういった連中が結構いるんだよ。いろんな分野にね。だから裸一貫で来て、ちゃんと自立しているどころか、ちゃんとゼネコンとも渡りあっている。

—今のような情報を、メディア番組を通じて発信している訳ですね。

そうそう。それをみんなに、少しでも沖縄に伝わればと思うし、こっちの人たちは自分たちの頑張りを伝えたい。常に沖縄のことを思って仕事をしているっていうことですよ。

—沖縄の番組なのに、全部東京でつくっているというのはいいですね。

はい。実は、東京には沖縄にない沖縄がある。もう、沖縄は都会化されていて、自分たちが知らないうちにどんどん本土化されている。東京に昔の沖縄がある。時に、東京には生きた化石が残っていて、ほんとにびっくりするよ。川平朝清先生から話を聞いたら、琉球王朝時代に、ひいおじいさんが最後の江戸上りに行っているだとか



という話もでてくる。ラジオ番組には、ビッグネームを出すよう努力をされていて、GACKTも出演した。また、一生懸命に沖縄の仮面研究をしている人もいるよ。5千年ぐらい前の沖縄に、古代文字があったって話で、これは、公表はしていないけど、仮面からそれを見つけたっていう沖縄の仮面文化の話がある。沖縄には、かつて仮面の祭りがあって、仮面というのは神様とかの象徴なので、これをかぶった瞬間に人は神様になる。まだ調べているのですが、沖縄文化にハジチがあるじゃないですか。ハジチっていうのは何の意味もないって言われているんだけど、実は琉球王朝以前に、これは祝詞が書かれているっていう説があるわけよ。これはちゃんとシュメール文字か何かになっているらしく、調べたら要するにシャーマンたちが、その文字を使っていた。中国語でもない、ちゃんとした琉球の古代文字というのがあるということは分かっている、琉球以前に文字を持っている島なのよっていう話。言葉も文字も持っているという。そういう面白い話をするおばちゃんがいるわ

けね。東京では、沖縄で聞けないびっくりするような話が聞ける場合があるよ。

—最後になりますが、沖縄の本土復帰30周年のとき、NHKの「ちゅらさん」では居酒屋ゆがふのおやじ役でしたね。

本当に「ちゅらさん」が当たったときには、2匹目のドジョウがと思いましたよ。復帰40周年に向け、また沖縄ブームになったら、今度は3匹目のドジョウを羽交い締めにする気持ちで、東京事務所で頑張るつもりですよ。

—本日はお忙しい中、面白い話を聞かせて頂き、誠にありがとうございました。

聞き手 企画研究部 前仲 清浩

ぴとるびき むーるびき

タイトルの言葉は、「一人(ぴとる)引(び)き、群引(むるび)き」、つまり、一人が立ち上がれば、みんなも立ち上がるという意味の沖縄の島に伝わる古い言葉だそうです。この言葉は、私が所属する企画研究部が昨年度、財団法人日本交通公社と共同で行った「エコリゾートアイランド沖縄推進事業」において作成したガイドブック「沖縄観光グリーンガイド2012」のキャッチコピーです。

この事業は、沖縄県の自然環境や文化、景観を保全・育成しつつ、「環境共生型観光」の振興に取り組んでいくため、観光業界の環境負荷の低減への取組みを促進していこうというものです。ガイドブックでは、観光関連事業者の方に向けて、事業活動をグリーン化する意義やメリット、すぐにできる簡単な取組みを紹介しています。ちなみに、「グリーン化」とは、“greening”という言葉で海外でも通じ、「今よりも環境に優しい状態に変えて行くプロセス」を表します。

ガイドブックは、ホテルや飲食業などの観光関連事業者向けですが、「環境と観光」というテーマを考えた時、沖縄に暮らす私達も無縁ではありません。そこで、ガイドブックで取り上げた「実はグリーン化先進地!? うちな一流取組み」というコラムからうちな一流グリーンな取組みをいくつか紹介します。

まずは、「赤黄箸」。自分のお箸を持ち歩いて、使い捨ての割りばしを使わないことで環境への負荷を引き下げようというマイ箸運動があります。しかし、沖縄ではそれ以前から食堂やそば屋で赤黄箸が使われ、リユースが行われていました。もともとの赤は漆で、塗りの滑り止め、黄色がウコンで、殺菌作用があるとのこと。今では沖縄のお土産としても販売されています。また、リサイクルの観点からは、「琉球ガラス」が有名です。

次に、「かりゆしウェア」。現在、省エネルギーの観点から推奨されているクールビズですが、沖縄県内では夏の装いとしてかりゆしウェアがすっかり定着しています。色とりどりのかりゆしウェアは、機能性とともにも南国・沖縄のイメージ醸成に一役買っているように思います。もともとは観光をアピールすることが目的だったのですが、暑い夏を過ごすための合理的な服装です。ところで、ひざ下までの長さのバミューダパンツは、イギリスの軍人が、英領バミューダ諸島の暑さをしのぐために作ったそうです。クールビズの先駆者である沖縄から「かりゆしパンツ」が考案されても良いかもしれません。

さらに、暑い夏をしのぐという点からは、「緑のカーテン」が挙げられています。二酸化炭素削減や夏の節電に取組む環境省では、「グリーンカーテンプロジェクト2012」としてゴーヤカーテンを推奨しています。沖縄では、強い日射しを和らげるために、多くの家の庭先にゴーヤが植えられてきました。緑のカーテンは、遮光や葉の蒸散による冷却効果があり、室温を下げ、エアコン代の節約とともに二酸化炭素の排出や節電にもなります。家の外観はそのまま沖縄の景観になります。緑が少ないといわれる沖縄の街ですが、緑のカーテンがさらに広がっていけば、沖縄の新しい魅力になっていくかもしれません。

最後に、私が気に入っているうちな一流は、「花ブロック」です。花ブロックは、様々な模様の穴の空いたコンクリートブロックを積み上げたもので、日射しを防ぎつつ、風を通し、目隠しの役割も果たします。その機能性はもちろんですが見た目にも楽しく、県外のコンクリート住宅とは異なるユニークな印象を見る人に与えていると思います。建築家・安藤忠雄も国際通りにあるフェスティバルビルを設計する際、那覇の街を歩き回って浮かんだイメージを形にした結果、花ブロックを全面的に使い、風と光、影が自在に入り込む建築となったそうです。ちなみにこの時、安藤忠雄はビルの最上階にガジュマルの木を植えるという大胆な屋上緑化もしています。

さて、今回紹介したうちな一流グリーンな取組みは、昔から沖縄に根付いているもの、戦後に取り入れられたもの、そしてかりゆしウェアのように近年普及したものでありますが、それぞれ日々の生活を快適に過ごすために考え出された合理的なものです。そして、それらが今では“沖縄らしさ”をしっかりと形作っています。「ぴとるびき、むーるびき」。観光と環境のためと肩ひじ張らず、食費と電気代の節約のために、緑のカーテンあたりからあなたもグリーン化を始めてみませんか。

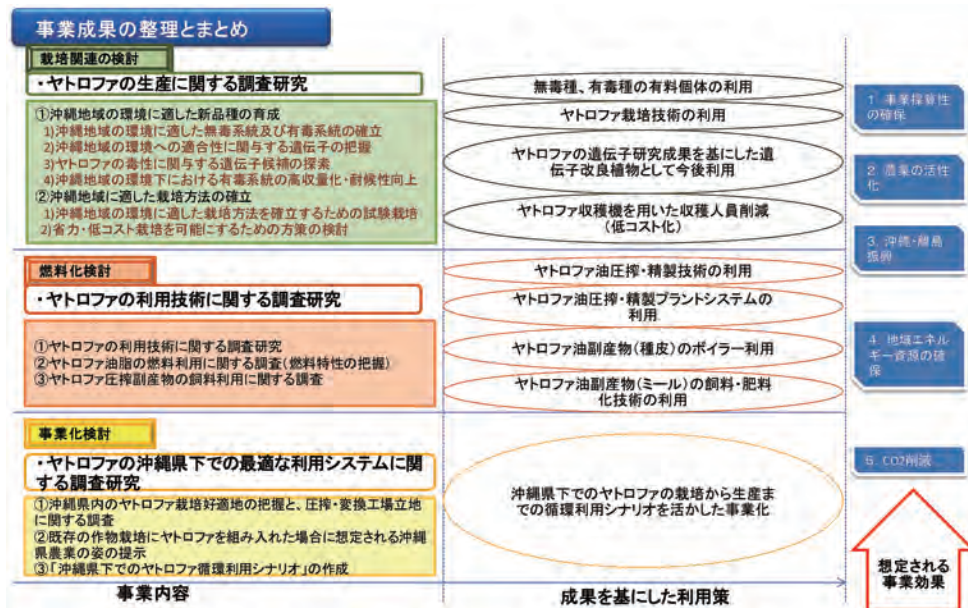
(企画研究部 喜納 悠太)

「島しょ型ゼロエミッションエネルギーシステム構築事業」 ～バイオマスエネルギーの実用化、総合利用に向けた調査研究～

本事業は、化石燃料への依存度が高い島しょ地域において安定的なエネルギー供給を図るためバイオマスエネルギーの実用化を目的に、近年注目されている熱帯植物のナンヨウアブラギリ（ヤトロファ）を用いた生産から利用までの総合的な実用性について調査研究を行った。

本事業は、沖縄県の「島しょ型ゼロエミッションエネルギーシステム構築事業」基本計画で掲げられた目標である“ヤトロファの「生産から利用までの最適なゼロエミッションのシステムのあり方を構築」”に向け、ヤトロファの生産から利用、事業化に関する調査研究を実施した。

本事業を実施するにあたり、以下の図のとおり3つの大きなテーマを設け沖縄県下でのヤトロファを利用したゼロエミッションシステムのあり方について調査研究を行った。



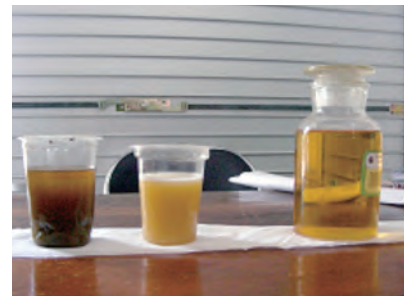
調査研究の結論として、ヤトロファを利用するための「栽培関連技術」「燃料利用技術」「事業化の検討」に分け、「栽培関連技術」では、ヤトロファの沖縄の気候・土壌に適した優良個体を選抜し、遺伝子レベルでの解析を行いつつ、収穫面では効率的な収穫機を開発した。また、「燃料利用技術」では発電機や重機等に利用できる精製方法を見だし実証試験において確認を行った。さらに、残渣の飼料化、燃料化技術についても利用できることを確認した。「事業化の検討」においては、「栽培関連技術」「燃料利用技術」の成果を基に沖縄県におけるヤトロファの循環利用シナリオを作成し、中長期的な計画を設け実現に向けたプロセスを明確にした事業展開を描いた。



ヤトロファの実



ヤトロファの種（内部）



ヤトロファ種を搾油したオイル

（調査第一部 西野 通憲）

平成 24 年度 第 1 回 理事会・評議員会の開催

平成 24 年度第 1 回理事会が 6 月 18 日（月）、第 1 回評議員会が 6 月 25 日（月）に開催され、それぞれ審議が行われ承認されました。

1. 平成 23 年度 事業報告・財務諸表の承認について

- (1) 経済・社会に関する調査・分析 3 件
- (2) 産業の活性化プロジェクトの発掘・推進 6 件
- (3) 技術開発・振興等マネジメント 7 件
- (4) 普及啓発 3 件
- (5) 沖縄グリーン電力基金

正味財産増減計算書（一部抜粋）	
平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで	
（単位：円）	
科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	594,300
特定資産運用益	72,073
受取会費	51,400,000
事業収益	460,697,425
負担金収益	961,000
受取寄付金	0
雑収益	1,020,218
経常収益計	514,745,016
(2) 経常費用	
事業費	457,398,841
管理費	58,381,612
経常費用計	515,780,453
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,035,437
評価損益等計	0
当期経常増減額	△ 1,035,437
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	0
(2) 経常外費用	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,035,437
一般正味財産期首残高	121,598,552
一般正味財産期末残高	120,563,115
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	134,000,000
指定正味財産期末残高	134,000,000
III 正味財産期末残高	254,563,115



〈理事会〉



〈評議員会〉

2. 公益目的支出計画実施報告書等の承認及び提出について

3. 組織規程の改正について

4. 平成 24 年度 第 1 回 評議員会の開催について

5. 理事の選任について

6. 評議員の選任について

（理事会承認案件：1. ～ 4. 評議員会承認案件：1.5.6.）

（総務部 宮里 宜子）

産学官交流サロン 3、4、6月

当財団では、産学官が気軽に集まって交流する産学官交流サロンを適時開催している。サロンでは毎回、講師を招いて20分程度の講話を頂き、その後気軽なスタイルで懇談、交流している。平成24年3月、4月、6月に開催されたサロンのトピックス概要を以下にご紹介する。

平成24年3月

日時：平成24年3月21日（水）18:30～20:30

場所：（一財）南西地域産業活性化センター 大会議室

トピックス：「目指すは長寿県沖縄の復活。産業振興には医学的根拠が必要！」

講師：琉球大学 熱帯生物圏研究センター
准教授 長嶺 勝 氏

概略：近年の沖縄では長寿社会の崩落が懸念されている。3月サロンでは長嶺氏より、大人数のDNAデータの調査から、「戦前の生活習慣」は長寿、一方「アメリカ時代の生活習慣」は肥満率が高いと報告を受けた。沖縄の健康食品産業活性化には大人数のデータが必要なため、健診データを集積して利用する仕組みでコスト軽減を図れないかと提案した。



平成24年4月

日時：平成24年4月17日（火）18:30～20:30

場所：（一財）南西地域産業活性化センター 大会議室

トピックス：「世界の文化、日本の文化ーグローバル・マーケティング視点でみた文化の相違」

講師：琉球大学
名誉教授 平敷 徹男 氏

概略：商品をお売るときに統制が可能な要因と、難しい要因がある。4月サロンでは平敷氏に、後者のうち、主に海外の文化面からご説明頂いた。中国では縁起の良い「赤」い白物家電が喜ばれる、お菓子の「Pocky」がイスラム教で禁忌の「Porky」に近いため、「Rocky」に改称される等の例を挙げながら、日本での洋服の浸透など、商品が文化を変えた例も触れた。



平成24年6月

日時：平成24年6月19日（火）18:30～20:30

場所：（一財）南西地域産業活性化センター 大会議室

トピックス：「MV22オスプレイ配備問題ー米国政府は安全になったというが…ー」

講師：沖縄タイムス
記者 知念 清張 氏

概略：垂直離着陸輸送機 MV22 オスプレイの沖縄への配備が計画されている。6月サロンに招いた沖縄タイムス知念氏によると、同機はハワイでも配備されているが、慎重に準備が進められた上に、基地周囲に市街地がある沖縄と条件が異なるとし、そもそも米軍機は民間航空機の80倍以上の事故率があることから、沖縄の負担増は不可能だと締めくくった。



次回の産学官交流サロンの案内や、過去の開催内容の概要は以下のサイトに記載されている。

<http://www.niac.or.jp/katudo6.htm>

（企画研究部 赤嶺 進也）

活動状況 (平成24年3月～平成24年6月)

3月 ● March

- 13日 「島しょ型ゼロエミッションエネルギーシステム構築事業」国内マッチング(東北-仙台)
- 17日 「スマートエネルギーアイランド基盤構築」亜熱帯型省エネ住宅部会フォーラム
- 17日 産学官交流サロン
- 21日 平成23年度第3回理事会
- 21日 「景気ウォッチャー調査」全国会合
- 23日 「スマートエネルギーアイランド基盤構築」第2回委員会
- 26日 「スマートエネルギーアイランド基盤構築」第2回分散型エネルギーシステム部会
- 27日 「島しょ型ゼロエミッションエネルギーシステム構築事業」フォーラム
- 28日 平成23年度第3回評議員会
- 28日 「島しょ型ゼロエミッションエネルギーシステム構築事業」第3回委員会

4月 ● April

- 17日 産学官交流サロン

5月 ● May

- 14～
- 15日 「景気ウォッチャー調査」全国担当者連絡会議(東京)
- 25日 「新たな沖縄振興の提言に関する調査研究」21世紀沖縄アクションプラン研究会
- 29日 業務監査

6月 ● June

- 18日 平成24年度第1回理事会
- 19日 産学官交流サロン
- 25日 平成24年度第1回評議員会

【賛助会員募集の案内】

当センターでは、地域産業の活性化や発展に寄与することを目的とした事業活動を推進するため、賛助会員を募集しております。

ご賛同いただいた会員には、当財団の事業活動への優先的参加をはじめ、次のような特典をご用意しております。

■会員の特典

- ・事業活動の公益的意義、研究活動等を通じて、産学官との交流に参加できます。
- ・地域の活性化事業、産業創造等に参画でき、技術相談、斡旋等が受けられます。
- ・財団が発行するニュースレター等定期刊行物が無料で受けられます。
- ・県内外の著名な研究者等とのネットワーク形成に参画する機会が得られます。

■申込・お問合せ先

〒900-0015 那覇市久茂地3丁目15番9号 アルテビルディング那覇2階
一般財団法人南西地域産業活性化センター 総務部
TEL (098) 866-4591 FAX (098) 869-0661

※賛助会員の加入等につきましては、ご不明な点などありましたら、お気軽にお問い合わせください。



Nansei Shoto Industrial Advancement Center

ニアック
NIACとは

一般財団法人 南西地域産業活性化センター
(Nansei Shoto Industrial Advancement Center)の略称で、
沖縄県と奄美大島の南西地域を拠点とする
公益法人として昭和63年1月に設立されました。
「南西地域のシンクタンク」として
地域産業活性化の各種事業を行っています。
平成23年4月1日に一般財団法人に移行しました。

一般財団法人 **南西地域産業活性化センター**

URL <http://www.niac.or.jp>

